二〇一九年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程（午前）

国語（六〇分 一〇〇点）

受験上の注意

- 一 この問題冊子は1ページから19ページまであります。
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。
（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）

受験番号

【一】 次の問いに答えなさい

問一 次の①～④の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、⑤～⑧の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 運命に身を委ねる。
- ② 蚕を養殖する。
- ③ 郊外の家に住む。
- ④ 名前の由来を知る。
- ⑤ 平和をセンゲンする。
- ⑥ 円のハンケイを求める。
- ⑦ 船がキテキを鳴らす。
- ⑧ クラクを共にした仲。

問二 次の①～③の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

①
b a
例をア_レげる。 机を二階にア_リげる。

②
b a
薬がよくキ_ク。 話し声をキ_ク。

③
b a
早起きにツ_トめる。 父がツ_トめる会社。

問三 次の――線部と同じ意味・用法のものをア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 私が好きなのはメロンだ。

ア わが子を抱きしめる。

イ 野菜は新鮮なのがいい。

ウ 雨も強いが風も強い。

エ おいしい水が飲みたい。

② 机の上にある本。

ア ある日のことだった。

イ 彼は、作家である。

ウ 家の近くに公園がある。

エ 以前もらったある手紙。

問四 次の案内板を読んで、後の問いに答えなさい。

この公園はみんなの遊び場です！

この公園はみんなの遊び場です！

大きい子も小さい子も、気持ちよく安全に遊べるように心がけましょう。

注意事項

- ・ すべり台は順番を守って遊びましょう。
- ・ ブランコでは前後を通る人にぶつからないように気をつけましょう。
- ・ 携帯電話はマナーモードにし、公園内では使わないでください。
- ・ 丸テーブルは飲食のためだけに使ってください。
- ・ 歩き始めたばかりの子も遊びに来ます。大きい子はやさしく接しましょう。
- ・ 人にゆずってもらったり助けてもらったりしたら、ありがとうと言いましょ。

〈1〉 次のア～ウを読んで、案内板に書かれているルールが、守られている場合は○を、守られていない場合は×を解答らんに書きなさい。

ア すべり台で遊ぼうとしたら、たくさんの人が並んでいたのので、一番最後に並んで順番を待った。

イ ブランコの横で、マナーモードにした携帯電話を使って、母とメールのやりとりをした。

ウ 丸テーブルで、クラスの仲良しの友達とジュースを飲みながら、一緒に宿題をした。

〈2〉 この案内板にはどのような願いがこめられていると考えられますか。次のア～オからふさわしいものを**すべて**選び、記号で答えなさい。

ア 公園では細かいことを気にせず、みんな小さい子のようにのびのびと遊んでほしい。

イ 公園ではみんなが楽しく遊べるように、大きい子は小さい子に配慮してほしい。

ウ 公園は楽しく遊ぶだけでなく、勉強や課外活動にも積極的に利用してほしい。

エ 公園の遊具は周りを見て、危険のないように使用してほしい。

オ 公園で誰かから好意を受けたら、感謝の気持ちを表してほしい。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

なぜヒトは過酷な平原（サバンナ）に進出していったのか。実はその時代、地球上で乾燥・寒冷化が進んで、生息地であった森林が少なくなってしまった。その際に、最後まで残された森林にしがみついていたのが現在のチンパンジーであり、環境変化のために①サバンナに出て行かざるを得なかったのがヒトであった。

森林からサバンナに出た彼らを待ち受けていたのは、大変に過酷な生活環境であった。★
年前、チンパンジーと分かれたばかりの頃はまだ毛むくじやらだっただけで、本当に毛をなくさなければいけなくなったのはサバンナに進出した200万年前ぐらいからであろう。 ー 600万

私たちはヒトは暑さで汗びっしょりになるが、こういう哺乳類は実はあまりいない。ウマは汗をかくが、イヌやネコはそんなにかかないし、そもそもそんなに長距離を走るようにはできていないのだ。ヒトの特徴の一つとして、長距離移動が可能であることが挙げられる。チーターなどは高速で移動できるが、長距離は走れない。これも汗腺と同じように、サバンナに適應し生き抜くための、ヒトの進化である。

次に、②食べ物の問題がある。それまでは樹木が生い茂る森で、木々の葉っぱや果実をもぎとって食べていればよかった。しかし、サバンナにはヒトが簡単に手に入れられるような食料はほとんどない。シマウマのような、タンパク質の塊ともいえる草食動物が多く生息しているが、ヒトは肉食動物ではない。肉食動物はつめやきばを持ち、ほかの動物を食料にできるが、木の上で暮らしていた霊長類が簡単にほかの動物を狩ることはできなかった。では、植物はというと、こうした過酷な場に生息する植物は水分をあまり含んでおらず乾燥しているものが多い。また外殻が硬かったり、水分を含む実の部分は地中に埋もれていることがほとんどである。そうした実をとるためには地面を掘らなくてはならないが、力よりも森林での生活に適した器用さを重視して進化した手なので、つめで掘り進むこともままならなかった。

では彼らはこの難局にどう適応していったのか。一つは食料を確保するために、自然を利用して道具を製作し、活用することを覚えた。石器を使って巧みに狩りや食物採取を行うようになった。

そしてもう一つ、目標を達成するために、役割を分担し、複数で共同作業を知ったのである。それまでのように、一人ひとりが群れの中で勝手に暮らすのではない。群れという組織において、互いが自分と相手の果たすべき役割を理解し、目標達成のために何をするかを考え、一緒に行動する。群れ全体が自分の立ち位置と役割を意識する集団となり、^③ こうした社会関係の理解こそが、※類人猿とは異なる、ヒトをヒトたらしめる最大の分岐点になったのだ。このときを契機として、ヒトの脳は著しく進化する。やがてヒトは、他の動物と比べて格段に大きな脳を持つようになった。これは過酷な環境でヒトが編み出した、生き抜くために必要な進化だったといえるだろう。

実際に脳の大きさを比較してみると、チンパンジーの脳の容量が約380ccであるのに対し、ヒトは約1400ccである。しかも進化の過程で単純にチンパンジーの脳がそのまま大きくなったというのではなく、目の裏の部分から頭のとっぺんにかけて、おでこ周辺にある前頭前野という部分が特に大きくなっているのだ。

その前頭前野とは、何を司る部分なのか。脳の働きは解析されてきたが、前頭前野にあたる部分がどのような機能を持っているかは長年分からなかった。近年ようやく、前頭前野は「自分を客観的に見る」感覚を司っていることがわかってきた。自分が何を、何を感じているか。そして他人が何を思い、どう感じているか。自分の気持ちを参照しながら、他人が何を感じ考えているかを知るための器官なのだ。また、自分が何を欲しているかということも※モニターしているので、それと連動して、目標を達成するために、次に何をしなければいけないかといった物事の優先順位を決める役割もある。

これは言語能力などは別々に管理されており、例えば事故で前頭前野を損傷してしまっても、言葉や記憶、思考には問題ない。しかし、^④ 自分勝手な行動が増えたり、次にするべきことの判断ができず、何かをしようという意欲もわかなくなってしまう。

前頭前野の働きをほかの霊長類と比較すると、サバンナに出て環境に適応したヒトが他人の心を読んで共同作業をし、社会生活

を営むようになった、という進化の過程がわかるのである。

人間の脳は、だらだらと何となく大きくなっていったのではなくて、サバンナに進出したときと、※ホモ・サピエンスが登場したときに、一気に大きくなった。まだ正確にはわかっていないが、二回目に脳が発達した時期は、20万年前、ホモ・サピエンスがアフリカ大陸から陸地を伝ってユーラシア大陸に進出し、世界各地に散らばり広がっていったときと重なっている。かつて森からサバンナに進出したときのように、それは大きな困難を伴ったことは想像に難くない。

そうしたリスクを冒してまで、なぜ彼らは外界に出て行ったのか。今よりもはるかに人口が少ない時代であり、アフリカ大陸にヒトが増えすぎて飽和状態になった、ということも考えにくい。

私はその要因は、Xではないかと思う。脳が大きくなることにより、ヒトは物事の因果関係をより深く考えるようになった。すると、今自分たちが生活している世界を客観視することができるようになり、同時に、さらに外の世界には何が広がっているのか、と考えるようになる。そうした冒険心から、彼らは別の大陸へ渡っていったのだと、私は考えている。それは、現在も我々が宇宙という空間に思いを馳せ、ステーションを建設し、惑星を探索することと同じなのではないだろうか。

（長谷川 眞理子「ヒトはなぜヒトになったか」より）

注 ※ 霊長類：サル目の哺乳類の総称。全動物中最も進化した一群で、サル類とヒト類を含む。

※ 類人猿：オランウータン・チンパンジー・ゴリラなどヒトに最も近いサル。

※ モニター：人や状態を観察・点検すること。

※ ホモ・サピエンス：地球上に住む人類およびその類縁のもの。

問一 ―― 線部①「サバンナに出て行かざるを得なかったのがヒトであった」とありますが、なぜ「ヒト」は「サバンナに出て行かざるを得なかった」のですか。その理由を「くから。」に続く形で本文中から三十五字でぬき出しなさい。

問二 本文中の「
★
」には後のア、ウ、エの文を並び替えた文章が入ります。その並び替える順番に記号で答えなさい。

ア このため彼らは体毛を失い、代わりに汗あせをかくための汗腺かんせんという器官が増えたと考えられる。

イ 水場がところどころに点々としかないので、水場から水場へ歩いて移動するにも長距離きよりを移動しなくてはいけない。

ウ そして気温が高いので、汗をどんどんかいて体温調節をする必要がある。

エ まず、水がほとんど存在しないのだ。

問三 ―― 線部②「食べ物の問題がある」について、次の問いに答えなさい。

1 サバンナでの「食べ物の問題」とはどのような問題ですか。「く」という問題」に続く形で、本文中から二十五字でぬき出して答えなさい。

2 「食べ物の問題」をヒトはどうすることで解決しましたか。本文中から二つ、それぞれ二十字以内でぬき出して答えなさい。

問四 ――線部③「こうした社会関係の理解」を實踐せんしている具体例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 社内のチームで、今期一番の売り上げを達成するために、チームメンバーこそライバルだという思いで、メンバーそれぞれが毎日一生懸命けん頑張っている。

イ サッカーの県大会で優勝を勝ち取るために、メンバーが自分の判断で行動するのではなく、監督かんとくの指示に従い、チーム全体が一致ち団結してプレーするようにしている。

ウ 町内会の出し物を決めるために、全体に意見を聞くのではなく、アンケートを配って一人ひとりに書いてもらい、できるだけ多様な意見を拾いあげるようにしている。

エ クラスをよりよくするために、全員がクラスの一員としての自覚を持ち、お互い協力しながら、それぞれの係の仕事をしっかりと行うようにしている。

オ いつまでも仲良しグループでいるために、登下校の時間を合わせたり、休日は一緒に遊んだりして、一緒にいる時間をできるだけたくさん作るようにしている。

問五 ――線部④「自分勝手な行動が増えたり」とありますが、なぜ前頭前野を損傷すると、自分勝手な行動が増えるのですか。本文中の言葉を使って五十字以内で答えなさい。

【三】 次の文章は、長野まゆみ『悪いけど、それやめてくれない?』の一節である。中学三年生の主人公「わたし」は、進路決定のための重要な模擬試験を受けている。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

雨のせいで、蒸し暑くなってきた。制服は今週から夏服に衣がえした。夏のスカートにはベルトがなく、バックルもない。そのかわりブラウスの胸ポケットに串団子の刺しゅうがある。茶店の仕事着のように、思われそうだ。

答案用紙に当てはめるべき単語の候補を余白に書いてみる。例文は五つあり、そのすべてに共通する単語を見つけなければいけない。

しだいに強まってくる雨音は、A を刻んでいる。おなじ靴をはいた集団が足並みをそろえて行進してくるようだ。

① 遠くのほうに見えていたブラカードに目当ての単語が一瞬だけ見えた。でも、行進する人たちがそれをさえぎった。そんな気分だった。

それだけならまだしも、またいつもの「耳ざわり」な音も聞こえてくる。終了のベルが鳴るまで、まだ十五分ほどある。集中したいのに、音のせいで気が散る。

あれは小早川こずえが、鉛筆を削っている音だ。姿は見えないけれど、断言できる。彼女以外に、そんな音をたてる人はいない。彼女は英語が得意だから、どの問題も迷わず解答して、時間を 持てあまして いるのだ。

鉛筆の芯の部分の部分をキリのように細く削るのが、こずえの好みだ。

芯の側面にナイフの刃をすべらせて、鉛筆の軸とおなじく六角形の角度をつける。そのさいに、聞きづらい音がひびくのだ。忘れていた奥歯の痛みを思いだすような、神経に障る音だ。

いちだんと雨が強まる。いっそのこと、こずえが発しているあの耳ざわりな音をかき消してくれるくらいのどしゃぶりになればよいと思う。ああ、でも雨音も、うっとうしい。まとまりかけた考えを、行進が蹴散らしてゆく。

② 鉛筆を削る音は、こずえ自身にとっては自己陶酔的な意味を持つていたのだろう。鼻歌でも歌いだしそうだ。…さすがにそれは聞こえてこないけれど…。試験の解答に、手ごたえを感じているらしい。

こずえはきつと、いつもどおり上位にランクインして、夏休み明けの判定で、はやばやと推薦で合格を決めてしまうだろう。べつに悪い人ではない。勉強もよくできる。校則違反もしない。だが、あつげらんとしてすぎて、周囲への配慮が足りない。

③ 余裕の産物である鉛筆削りが、試験中の教室で得意げにひびき渡っていることなど、思いもよらないのだ。

それとも、あの鉛筆削りに腹を立てているのはわたしだけ？ みんなの咳払いや、嘆息は抗議のあらわれではないの？

時間つぶしなら、もつと自己完結的な方法を選んでほしい。人に迷惑をかけないように。…たとえば、栗色の髪を肩や胸にひらげて、机に突っ伏しているリョーコのように…。あるいは問題用紙の裏面に試験監督の似顔絵を描くチャロのように…これはいつも、試験のあとの休み時間に見せてくれるのだが…残りの時間をおとなしく過ごす方法はいくらでもある。

最後の悪あがきをしている者がいることを、少しは思いやってみてほしい。「もう、いいかげんにして」と叫びたくなる。だが、それとできない。大声など出せば、コチラが試験妨害していると判定される。短気は損気と自分にいいきかせる。

一度書いた答えを、あわただしく消しゴムで消すシホの後ろ姿が見えた。答案用紙が破ける音もした。あせているのだ。残り五分になった。こずえは削った鉛筆を机のはじにならべている。高さの順かなにかに。見えないけれども、そういう音がする。

突っ伏していたリョーコが、頭を起しながら、左手のこぶしで机のはじを強くたたいた。怒りの表明のように思える。彼女もまた鉛筆削りを耳ざわりに感じたのかもしれない。こずえの鉛筆削りは、いまにはじまったことではない。このあいだの中間テストのときにも、それは聞こえた。

「なんでだれもあれをやめさせないの？」と、休み時間になってリョーコがつぶやいた。具体的なことは、ひとことも言わなかった。すぐ近くを小早川こずえが通りかかったからだ。リョーコはハンドボール部のキャプテンらしく、
⑤ 状況判断がたくみだ。
無用なもめごともない。

「まあ、そういうわけだからさ」と話をぼかした。ポケットからヘアピンを取りだし、口にくわえる。そのあと手グシで髪をまとめ、毛先をねじってピンでとめた。リョーコがうなじを出しはじめると、夏が来たなあ、という感じがする。

でもまだ、ニットのベストを着ていた。それも制服だが、ほんとうは冬服だから、衣がえのあとでは着ないものだ。けれどもわたしたちは、校則違反だろうとなんだらうと夏じゆうニットのベストを着てすこす。ブラウスの胸ポケットの、洗練されているとは思えない串団子の刺しゅうをかくすため、あるいは下着が透けるのを回避するために。

ところが、小早川こずえだけは規則どおりに、ブラウス一枚で夏をすこす。通学のときもそのままだ。こずえは背筋をのばして、胸をはって歩く人でもある。

タイムリミット。試験終了のベルが鳴った。わたしは、()に当てはめる正しい答えを思いつけないままだった。

「まったくもう！」

廊下に出ると同時に、だれかが叫んだ。だれだかわからなかったが、わたしもいっしょに叫びたかった。すると、すかさずリョーコが「同感！」と言った。それでたちまちみんなが：正確には、こずえをのぞくみんなが：いつせいに了解した。

こずえが孤立した瞬間だった。おそろしいことに、具体的な名前や理由はだれの口からもでなかった。⑥ ただ、みんなには何をどうするのか、ちゃんとわかっていた。

模試は昼食をはさんで午後もつづいた。こずえは理系科目もよくできる。数学の時間も、残り二十分を切ったところに鉛筆削りをはじめた。わたしは二次関数の問題の空欄を埋める数式を求め、余白のどこかに正解が啓示される奇跡を待っているところだった。

「悪いけど、それやめてくれない」

だれが言ったのか、わからなかった。意識的に声の調子を変えている。仲間にたいする親しみや、気兼ねを取り去るとこういう声になるのだという見本だった。

教室が、緊張した。ピンと音を立ててそうなくらいに。さいわい、試験監督の教師にはわたしたちほどハッキリとは聞きとれなかったようだ。「静かに」と諭すだけで終わった。

おどろいたことに小早川こずえにも通じなかった。彼女はそのあとも鉛筆削りをやめなかった。終了のベルとともに猶予期間は切れた。

問一 〓線部 a、b の本文中での意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 「持てあましている」

- ア 忘れ去っている
- イ 別のことに使っている
- ウ かなり削っている
- エ 不快に過ごしている
- オ 使いきれないでいる

b 「悪あがきをしている」

- ア テストで疲れてしまった頭をいやそうとする
- イ 残り時間を他人と楽しく過ごそうとする
- ウ できない問題があり現実から逃げようとする
- エ わからないが最後まで懸命に解答しようとする
- オ 自分の解答が終わったから試験妨害をする

問二 本文中の A に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア あらたまった調子 イ 不安な時間 ウ 激しい旋律せんりつ エ 規則的なリズム オ 懐かしい思い出なつかしいおもいで

問三 ———— 線部① 「遠くのほうに見えていたプラカードに目当ての単語が一瞬しゆんだけ見えた。でも、行進する人たちがそれをさえぎった」とありますが、この時の「わたし」の様子として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 試験が難しすぎて、どうしてもいかわからなくなっている様子。
イ 強まってくる雨音にぞくぞくとした恐怖きょうふを感じてしまった様子。
ウ 解答がわかりそうだったので、わからなくなってしまう様子。
エ 試験ができなかったので、投げやりになってしまった様子。
オ 雨音に聞き入って、気が散って、ボーツとしてしまった様子。

問四 ——— 線部② 「鉛筆を削る音は、こずえ自身にとっては自己陶醉とくすい的な意味を持っていたのだろう」とありますが、この時の

「こずえ」の様子として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 鉛筆を削ることに集中し、それ以外は何もかも忘れている。

イ 雨音と鉛筆を削る音の美しいハーモニーにうっとりしている。

ウ 簡単に試験が解けず、歌でも歌うしかない気分になっている。

エ 答案がしつかりと書けた今の状況について満足している。

オ 何度か挑戦ちせんした鉛筆削りがうまくできて、うれしく感じている。

問五 ——— 線部③ 「余裕ゆゆうの産物である鉛筆削りが、試験中の教室で得意げにひびき渡わたっていることなど、思いもよらないのだ」とありますが、ここで「わたし」は「こずえ」のことをどのような人だと思っていると考えられますか。最も適当なものを次

の中から選び、記号で答えなさい。

ア かわいそうな人

イ 立派な人

ウ 無神経な人

エ 器うつわの大きい人

オ 性格の悪い人

問六 ——— 線部④ 「自己完結的な方法を選んでほしい」とありますが、「わたし」が「こずえ」に望んでいるのは、どのような

ことですか。三十五字以内で答えなさい。

問七 ——— 線部⑤ 「状況判断がたくみだ」とありますが、この場面でリョーコはどのような判断をしたのですか。最も適当なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア 鉛筆を削る音をたてることをすぐにやめさせるべきだという判断。

イ 自分には「こずえ」に注意をする資格がないのだという判断。

ウ 今、ここで「こずえ」とは直接対立しない方がいいという判断。

エ できるだけ「こずえ」を傷つけないようにするべきだという判断。

オ 「こずえ」が優等生だから、先生に言っても仕方がないという判断。

問八 ——— 線部⑥ 「ただ、みんなには何をどうするのが、ちゃんとわかっていた」とありますが、どんなことを「わかっていた」と考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「こずえ」の行為に腹を立てた人たちが、「こずえ」の迷惑行為に対して抗議の意思を表明すること。

イ 「こずえ」の行為に腹を立てた人たちが、試験が終わってから「こずえ」に八つ当たりをしてしまうこと。

ウ 「こずえ」の行為に腹を立てた人たちが、「こずえ」の欠点を並べ立てて、それを理由にばかにすること。

エ 「こずえ」の行為に腹を立てたが、残りの試験は「こずえ」を気にせず問題を解くことに集中すること。

オ 「こずえ」の行為に腹を立てたが、「こずえ」が孤立するのはかわいそうなので、誰かが注意しに行くこと。

問九 この文章の表現の特徴を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「鉛筆の芯」や「ナイフ」という尖ったもので、「こずえ」の攻撃的な態度が表されている。
- イ 様々な音を描写することで、試験を受ける「わたし」の緊張した気持ちが効果的に表されている。
- ウ 「わたし」の視点から詳しく語られることで、教室の様子が読者によく伝わるよう表現されている。
- エ 「！」や「…」を多用することで、「こずえ」の気持ちの浮き沈みが表現されている。
- オ 服装の描写をすることで、自分の制服に誇りを持つ「わたし」の気持ちが表されている。

【問題はこれで終わりです。】

--

問一	
⑤	①
⑥	ねる ②
⑦	③
⑧	④

問二	
①	a
②	b
③	a
④	b
問三	①
①	②
②	ア
③	イ
④	ウ
問四(1)	(2)
ア	イ
イ	ウ
ウ	エ
エ	オ
オ	カ
カ	キ
キ	ク
ク	ケ
ケ	コ
コ	サ
サ	シ
シ	ス
ス	セ
セ	ソ
ソ	タ
タ	チ
チ	ツ
ツ	テ
テ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	ト
ト	ナ
ナ	ニ
ニ	ノ
ノ	ハ
ハ	ヒ
ヒ	フ
フ	ヘ
ヘ	ホ
ホ	ヘ
ヘ	

【一】

問一	⑤	①	ゆだ
宣言	ねる	②	かいこ
⑥	半径	③	こうがい
⑦	汽笛	④	ゆらい
⑧	苦楽		

【二】

問二	問三	問四（1）	問四（2）
①	①	ア	イ・エ・オ
a 上	a 聞	イ×	
b 挙	b 効	ウ×	
②	②	（2）	
a 聞	a 勤		
b 効	b 努		

問一

地	球
上	で
乾	燥
・	寒
冷	化
が	進
まん	で
、	息
地	地
で	で
あ	あ

から。

問二
（エ） ↓ （イ） ↓ （ウ） ↓ （ア）

問三

ヒ	ト
が	簡
単	に
手	に
入	れ
ら	れ
る	よ
う	な
食	料
は	ほ

1
という問題

自	役
然	割
を	を
利	分
用	担
し	し
て	、
道	複
具	数
を	で
製	共
作	同
し	作
、	業
活	を
用	す
す	る
る	こ
こ	と

2

問四
エ

問五

前	他	働
頭	人	き
前	が	が
野	何	あ
に	を	る
は	感	か
自	じ	ら
分	考	。
を	え	
客	て	
観	い	
的	る	
に	の	
見	か	
る	を	
と	知	
と	る	
も	と	
に	い	
、	う	

問六
ウ
問七
エ
カ

【三】

問一

a	問二
オ	エ
b	エ
エ	

問三
ウ
問四
エ
問五
ウ

問六

他	残
人	り
に	時
迷	間
惑	を
を	過
か	ご
け	す
な	こ
い	と
よ	。
う	
に	
音	
を	
立	
て	
な	
い	
で	

問七
ウ
問八
ア
問九
ウ

二〇一九年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程 (午後)

作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙と下書き用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、あなたが感じたことや考えたことを六百字以内で書きなさい。

山口県で母親の実家に遊びに来ていた二歳の男の子が行方不明になり、三日ぶりにボランティアの男性に助け出された。この暑さと気象条件のなかでの救出だったから、報道をきいて心からよかった、と思った。後になってボランティアの男性は七十八歳で、東日本大震災をはじめ、各地の被災地で活動なされたことを知った。小型のワゴン車に寝袋や食糧をつみ、そこで寝泊まりしながらボランティアをなさるとのこと。陽やけした笑顔で、男の子を救出した後、十五時間ぶりという食事を戸外でとる様子をテレビで見たのだが、白いご飯に赤しそがのっているシンプルなものだった。その時思いうかべたのが、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」である。本棚に置いてある宮沢賢治の詩集をあけて詩を読みかえした。

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ

丈夫ナカラダヲモチ

欲ハナク

決シテ瞋ラズ

イツモシズカニワラッテイル

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

(中略)

ソウイウモノニ

ワタシハナリタイ

久しぶりに詩を読みながら心が洗われるのを感じた。

他者のために何かをすることは、心の活気を上昇させるという調査結果がある。この場合、何かすることが義務になつていたり、そのことでほめられたり、評価されたりすることが目的だと、評価という見返りが無い場合は落ちこんでしまうが、見返りを求めない場合は、人を助けることにより自分も元気になるのである。「自分が自分でいい」という気持ち、自己肯定感^{じこ肯定感}は生きる支えになる。またそのことが、自分自身が困難な状況^{きんなんなじょうきょう}を乗り切るエネルギーになるのだと思う。

誰もが身体を使うボランティアができるわけではない。でも、できる範囲^{はんい}で他者のために何かすることで、自分にもエネルギーが返ってくるように思う。

二〇一九年度

和歌山信愛中学校

入学試験 B日程

国語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 この問題冊子は1ページから21ページまであります。
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 ー線部①～②の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、ー線部③～⑦のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① つらい胸中を語る。
- ② 穀物を育てる。
- ③ 医学の世界にこうせきを残す。
- ④ 世界しんきろくを出す。
- ⑤ ハチのたいぐんにおそわれる。
- ⑥ 命のおんじんだ。
- ⑦ にゆうじょうけんを買う。

問二 次の①～④の文中の□に当てはまる、体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

- ① おばあさんは孫が遊びに来るのを□を長くして待っている。
- ② 大事な本をなくしてしまったので、□を皿のようにして探す。
- ③ 友人の上手な英語に□を巻く。
- ④ 兄の長年の努力には□が下がる。

問三 次の会話文を読んで、後の問いに答えなさい。

信子さん 先生、パンを焼くときの注意点は何ですか。

先生 パンを作るときに、必ず途中で発酵させます。①これが上手においしいパンを焼くためのコツです。このときに時間を置かずすぐに焼いてしまうと、パンは膨らまずに固くなってしまいます。

愛子さん なぜ固くなってしまうのですか。

先生 パンを作るときに入れるイースト菌は、発酵することで炭酸ガスを出します。そのガスが生地に含まれることで、パンがふっくらと焼けるのです。イースト菌はパンの生地の中の糖を栄養源にしているんですよ。

愛子さん ②イースト菌が発酵する時間が必要なんですね。

信子さん その時間はパン生地を放っておいていいのですか。

先生 生地が冷えてしまつてはいけません。オーブンの発酵機能を使いましょう。③生地に入れる水や牛乳も、冷たい場合は暖めておいたほうがいいですね。

1 ———線部①について、次の~~~~線部A・B・Cはそれぞれどこにかかっていますか。———線部ア〜カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A~~~~
これが
B~~~~
ア上手に
C~~~~
イおいしい
ウパンを
エ焼く
オための
カ
コツです。

2 ——— 線部②の愛子さんの発言はどのような働きをしていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 先生の発言に対して、賛成意見を述べている。
- イ 先生の発言に対して、反対意見を述べている。
- ウ 先生の発言の具体例を挙げている。
- エ 先生の発言をまとめて、確認たしかめしている。

3 ——— 線部③の中には適切ではない漢字があります。その漢字をぬき出し、正しく直しなさい。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本人の会話の中で、いちばんよく使われるのは「やっぱり」、あるいは「やはり」という言葉ではあるまいか。テレビやラジオなどで耳にする会話の中でも、この言葉は頻出する。殊に何かについての意見を求められた場合に、その頻出度はいつそう高まるようだ。

A、新しい内閣ができて、それについての意見や感想を聞かれるようなとき、B 世間の耳目を集めるような事件が起こった際、テレビやラジオのマイクを差し出されると、ほとんどの人が「やっぱり、こうじゃないですか」「それはやはり、こうだと思います」と自分の意見や感想の前に、必ず「やはり」「やっぱり」という言葉を、あたかも接頭辞のようにつける。いったい、「やはり」とか「やっぱり」という言葉は何を意味しているのだろうか。

むろん、ほとんどの人はこの言葉を意識して使っているわけではない。無意識のうちに、ただなんとなく口にしているにちがいない。だから、なにもそうやかましく詮索する必要はないと思われるかもしれない。C、言葉というものは、それが無意識のうちに使われれば使われるほど、何か隠された重要な意味をもっているものである。日本の古いことわざにも、「^①言葉は心の使い」とある。人は、時に意識的に心にもないことを言ったりするが、何気なく口にした言葉には、その人の本心が表れているのである。

なぜ私がこの慣用語を気にし始めたかという点、実は、知り合いのアメリカ人にその意味を聞かれたからなのである。日本人が連発する「やっぱり」という日本語の意味はどういうことなのか、と。そう聞かれて、私は返事につまった。はて、「やっぱり」とか「やはり」とはどういう意味なのだろう。慣用語なので私は別にその意味を深く考えたこともなかった。しかし、それ以来私もテレビやラジオを注意して聴くようになった。D、とたんに「やっぱり」とか「やはり」という言葉が気になりだし

た。気になると、いよいよこの言葉が耳につくようになる。しまいにはイライラするようにさえなった。そして、こんなにも日本人が会話の中でよく使う以上、この言葉には、きわめて日本的な意味が込められているにちがいない、と思い始めた。

では、その意味とは何なのか。

アメリカの知人にこの言葉の意味を聞かれた時、私はしばらく考えたすえ、*as you know* (あなたもご存じのとおり) と言うのがいちばん近いのではないかと答えた。そういえば、アメリカ人も二言めには *You know?* という間投詞を差し挟むではないか。それと同じだと教えたのである。

ところが、彼は納得しなかった。アメリカ人のよく使う *you know* という言葉は、「あなたはご存じでしょう」ということであり、自分がしゃべっている事柄を相手を知っているか、もしくは理解しているか、それを確認しつつ話を進めているのであって、日本語の「やはり」とはニュアンスが違う、と言うのである。確かに、よく考えてみると、「やはり」と *you know* とでは、やはりどこかニュアンスが違う。日本語の「やはり」には、*as I expected* すなわち、私が以前からそうではないかと思っていたとおり、という意味も含まれているからである。例えば、「やっぱり雨が降ってきた」というのは、「自分が予想していたように雨が降りだした」ということである。とすると、これを英語に訳す場合、「やっぱり」を *you know* と言うわけにはいかない。つまり、「やはり」「やっぱり」という日本語は英語の *you know* ではないということになる。

で、私は彼にそう説明した。すると彼は目を丸くして、こう言った。

「ほう、そうなんですか。してみると、^②日本人は皆予言者なんですね。」

確かに、そう言われてもしかたないふしがある。やっぱり雨が降ってきた、というのは、予想していたとおり雨が降り始めた、ということである。自分が予想したにせよ、他人が予言したにせよ、あらかじめそう考えていたことには変わりはない。「やっぱり」を頻繁に使う日本人は全てにわたって予感に似たものを抱いている、ということになる。

そう。日本人の特質は、常に何かを予想し、予期しているということなのである。それはある種の運命観といってもいい。日本人はいつもその予感のなかで生きているのだ。

このことは、^③恐らく日本という風土、その自然環境と無関係ではあるまい。日本では（場所によって多少異なるが）一年のうちで四季が三か月ずつに均等に配分されており、風月はまことに規則正しく循環している。まさしく、「I」^Iというあんばいである。このような風土は、世界広しといえども、きわめて例外に属する。他の地域では四季にはたいてい長短があり、雨季と乾季はあっても四季などもたぬ国さえ多いのだ。

日本では四季が均等に分かれたれ、歳月がきわめて規則的にめぐるので、なにかもがはつきりと見通せる。二月の末頃に強い風が吹くと、天気相談所に「この風は春一番か」という問い合わせが殺到するそうだが、それは、もうそろそろ「春一番」が吹いてもよさそうだと、多くの人がそれを予想し、予期しているからなのである。そして、気象庁が「本日吹いた風は春一番です」というと、日本人は「やっぱりそうか」とうなずいて安心して、新聞も大きな見出しでそれを報じる。同じことは「梅雨明け宣言」についてもいえよう。梅雨が明けたことをわざわざ宣言するというのは、日本人が皆それを期待しているからなのだ。だからその期待にこたえなければならぬのである。そのような宣言によって日本人は「やっぱり」と言って安心する。これが「やっぱり」の風土的背景といつてよからう。

しかし、「やっぱり」にはもう一つ、社会的な背景がある。それは日本の社会が世界でも珍しいほどの同質社会であることだ。地球上の多くの国々は民族と国民とが必ずしも重なっていない。中国やインドやアメリカ合衆国などの大きな国はもとより、シンガポールのような小さな国でも多くの民族が集まって一つの国をつくっている。民族が異なるということは、言語や宗教や習慣が違ふことであり、したがってそのような社会では人間関係がきわめて複雑である。

ところが日本の場合には民族と国民とがほぼ一つになっており、この意味でたいへん気楽な社会だといえる。他国にみられるような民族的な軋轢はこの国にはない。

しかし、④ 同質の社会というものは、だからといって、必ずしも手放して気楽な社会というわけではない。同質社会には同質社会なりの圧力があるのだ。その圧力とは、同じでなければならぬ、ということである。だからこそ日本はそのローラーによって、他のどんな国よりも（平等を理想とする社会主義国よりも）、所得の格差が小さく、国民の大多数が皆「中流」をもって任じているのだ。九〇パーセント以上の人が皆同じ「中流」階級に属しているなどと思っている国は、ほかにない。

むろん、私はこれに異存があるわけではない。貧富ひんぷの差がなく、国民の所得が平等に近いということは大いに結構なことである。だが、人それぞれの意見までが同じ、となると話は別になる。いくら同質社会といっても、各人の意見までが同じでなければならぬという道理はないからだ。ところが、同質社会は、とかく考え方までが同じでなければならぬように思い込ませてしまうのである。日本人が人一倍「X」を気にするのは、そのような無言の圧力のせいである。「X」を気にするというのは、自分が人並み外れてはいはないかどうか、という臆病おくびょうなまでの配慮りよといっている。

当然、何かについての自分の意見を発表する際には、そうした配慮がはたらく。日本という同質社会では、同じことがいいことなのであり、人並み外れた意見というのはⅡい目で見られるからである。別に危害を加えられるわけではないが、仲間外れにされてしまうのだ。日本人にとっては、仲間外れほどつらい仕打ちはない。なぜなら、仲間外れになるということは、日本人でなくなるような気にさせられることだからである。

「やっぱり」とか「やはり」というこの慣用語は、実は、その恐怖きょうふを無意識のうちに言い表しているのである。日本人が何かについて意見をきかれたときに、やたらに「やっぱり」や「やはり」を連発するのは、「私が思っていたとおり」という予言的な、つまり、自信に満ちあふれた立場の表明ではなく、「あなたをはじめ、みんながそう思っているように」自分もそう思う、という意味の「やっぱり」なのだ。だから、マイクを差し出されて意見をただされたときに、ほとんどの人が「やっぱり」をつい連発してしまうのである。それは無意識のうちに世間におうかがいを立て、自分の意見が決して人並み外れた考えではなく、世間の皆さ

んと同じように自分もそう考えます、ということをも弁明する強調詞だといってもいい。

だとすれば、数多くの日本語の中で、「やっぱり」、あるいは「やはり」という慣用語こそ、なにより日本的な性格を正直に告白している言葉といえないであろうか。

私はこの言葉こそ、日本の主語だと思う。「自分はこう思う」というときの主語は、むろん、その意見を発表する「自分」である。
III

(森本哲郎 てつろう 『日本語 表と裏』より)

問一 本文中の A D に当てはまる言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア すると イ しかし ウ だから エ 例えば オ あるいは

問二 ——— 線部①「言葉は心の使い」とありますが、このことわざはどのようなことを述べるために用いられているのですか。「〜ということ。」に続く形で本文中から二十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 ———線部②「日本人は皆予言者なんですネ」とありますが、「彼」がどのように言ったのはなぜですか。その理由を説明した次の文の空欄に当てはまる語句を本文中の言葉を使って指定の字数で答えなさい。

日本人が多用する「やはり」には

(二十五字以内)

という説明を受けたから。

問四 ———線部③「恐らく日本という風土、その自然環境と無関係ではあるまい」とありますが、「やっぱり」が多用されるこ

とにつながる日本の風土について説明している部分を、本文中から二十五字でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問五 本文中の I に当てはまる慣用表現として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 暑さ寒さも彼岸まで イ 雨降って地固まる
- エ 嵐あらしの前の静けさ オ 盆ぼんと正月しんげつが一緒いっしょに来たよう
- ウ 風が吹けば桶屋おけが儲もうかる

問六 ———線部④「同質の社会というものは、だからといって、必ずしも手放して気楽な社会というわけではない」とありますが、それはなぜですか。「くから。」に続く形で、本文中から三十字以内でぬき出しなさい。

問七 本文中の二つの ≪ X ≫ には、同じ言葉が入ります。当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 運命
- イ 天候
- ウ 世間体せけんたい
- エ 外見
- オ 内面

問八 本文中の **Ⅱ** に当てはまる色を表す言葉を漢字一字で答えなさい。

に当てはまる文として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア だが、「やっぱり」とか「やはり」で、「あなたはご存じでしょう」と、相手が知っているか確認しつつ話を進めるといふことは、「自分」という主語のほかにもう一つ、「あなた」が大主語になっているとも言えるのだ。

イ だが、「やっぱり」とか「やはり」を多用し、「私が思っていたとおり」という予言的な自信に満ちあふれた立場を表明すること、で、「あなたも」という大主語を置き、強制的に自分の考えに同意させようとしているのだ。

ウ だが、民族と国民が重なっておらず、そのため人間関係がきわめて複雑な日本にあつては、「やっぱり」とか「やはり」をわざわざ多用することで、「日本国民」がという大主語を意識して、国民的合意があるかのように装うのだ。

エ だが、「やっぱり」とか「やはり」を差し挟むときには、「自分」という主語のほかにもう一つ、「日本」という、あるいは「世間」という大主語が無意識のうちに予想され、前提されているのだ。

オ だが、常に何かを予想し、予期している日本人にとって、「やっぱり」や「やはり」の多用は、「自分」という主語のほかにもう一つ、「予言者」が、「自分」を超えた大主語になっていると考えられるのだ。

【三】 次の文章は井上ひさしの『汚点』の一節です。舞台は終戦間もない日本で、アメリカ軍（進駐軍）が日本を統治している時代です。主人公の「ぼく」は家庭の事情でキリスト教会が運営する養護施設（孤児院）に預けられており、中三生（ぼく・小川・佐久間）は施設から全日制の公立高校に通いたくて必死で勉強しています。その様子を、現在、昼間は工場で働き、夜は定時制（夜間）高校へ通う先輩の船橋たちは苦々しい思いで見つめており、何かとケチをつけ、「ぼく」たちの勉強を邪魔しています。本文は、それに続く場面です。以下を読んで、後の問いに答えなさい。

二月末の日曜日の午後、孤児院の長い急な坂道を、草色の大型バスが二台、登ってきた。進駐軍のキャンプのカトリック信者将校たちが僕らを慰問にやってきたのだった。ぼくらの孤児院に慰問バスや見学バスがやってくるのは珍しいことではなかった。特にひんぱんに訪れるのは中年夫人の団体だった。彼女たちは乾パンか、せいぜいかりん糖ぐらいを手土産にやってきて、ぼくから不幸の匂いを嗅ぎだすのを楽しみにしていた。「お父さんもお母さんもなくなったの？ まあ、かわいそうねえ！」「両親が別居？ それは大変ねえ！」「継父さんにいじめられた？ おやおや、ひどい男ね！」彼女たちは何十万円もする着物の生地をなごめるときのような嘆声をもらし、^① ぼくらの不幸を鑑賞して帰っていく。

それに較べると、^② 米軍兵士の慰問は、ぼくらの趣味にじつによく合っていた。彼らのバスはまずおもちゃ箱のようであった。新品のグローブ、ローラー・スケートに衣料品、ビンゴゲームや簡易ボウリングセット、模型飛行機やシェパードの子犬。映写機に漫画映画のフィルム、卓球台に木工道具などがバスの中から飛び出してきた。バスは時にはコックがついてくるのだ。さらにあるときには、芸人や歌手たちが訪れた。ぼくらはせまい孤児院の講堂で「スワニー」を歌うアル・ジョルソンの唾を浴びたり、ボブ・ホープのしゃくれたあごをながめたりした。

講堂に将校たちが入ってきた。それぞれ、腕にボクシングのグローブをぶら下げている。それからまぶしく光る大小のハーモニカ。

将校たちが何か言うたびにダニエル院長が通訳した。

「今日はボクシングのグローブやハーモニカのほかに、将校たちはもう一つ、すばらしいプレゼントを持ってきてくださいました」
それから、院長は小川と佐久間とぼくに、前へ出るように言った。

「あなた方のために、将校たちは四五〇ドル寄付してくれました。これはあなたがた三人が三年間、公立の高校へ納める月謝の合計額とほとんど同じくらいのお金です。あなたがたはもう月謝の心配はいりません。そしてもっとすばらしいことに、進駐軍キャンプがあるかぎり、毎年、公立高校へ進学する子どもに、三年間の月謝を寄付したいと将校たちが言うてくださっています。さあ、三人の中学三年生、みんなにかわって礼を言いなさい」

ぼくは将校たちの前に進み、ひとりひとりと握手をし、通じるかどうか 心もどなかつたが、サンキューと言って回った。小川と佐久間はためらっていた。二人とも背中に船橋たちの視線を感じ、その視線で 金縛りにあっているらしかった。

「小川！ 佐久間！ どうしました？」

「ぼくは働きながら夜間に通います。佐久間君もぼくと同じ考えです」

小川がぼそつと言った。

佐久間も しぶしぶ首を縦に振った。

「わかりませんね。なぜ、急に考えを変えたのですか」

二人は、なぜだかわかりませんが、そう決心したので、と口の中で答えた。将校たちがダニエル院長に、自分たちのプレゼントがなぜこのような冷淡な受け取られ方をしなければならないのか、そんな意味のことを訊いた。院長はよくわけのわからないまま、あの二人は大変な独立心の持ち主でありまして、というようなことを答えたようだった。すると、将校たちは小川と佐久間に拍手を送り、握手を求め、二人の独立心をたたえ、それからさつきとは打ってかわった冷たい目つきでぼくを見た。③ ぼくが独立心に欠けていることを非難している目つきだった。

こうして、小川と佐久間の三百ドルは翌年度の公立学校進学者のために、院長が保管しておくことになったのだが、それから、高校入学試験の前日までの一週間、妙なことばかり起こった。

まず、将校たちが帰ったあとすぐに、事務室の机の上から寄贈されたばかりのハーモニカ、それも、最も高価なコード・ハーモニカが消え失せたのだった。ダニエル院長は事務室のすべての家具をずらし、動かし、隅々までを探した。船橋たちが院長に進言し、収容児童全員のベッドとロッカーが調べられることになった。ハーモニカは、ぼくのベッドのマットレスの中に隠されていた。

④ 院長はとても信じられない、というようにぼくを見つめた。ぼくも同じ目つきで院長を見た。しばらく見つめ合いが続いた。やがて院長は首を振って呟いた。「なにがなんだかよくわかりません」

ぼくには船橋たちの仕業だと見当はついていない。⑤ しかし、黙っていた。まず船橋たちがやったという証拠はない。それに受験をすぐ間近に控えて、事を大きくしたくはなかった。なによりも、公立高校に入学することが先だった。

A 翌日は、近くの果物屋のおばさんが、息せき切つて血相かえて、孤児院の坂を駆けのぼつてきた。ぼくは勉強部屋からおばさんを見つけて何を慌てているのだろうかといぶかししく思った。それから、ぼくはおばさんの一人娘のことをちらツと思ひ浮かべた。その子はぼくらと同じ中学三年生で、学校の廊下でよく顔を合わせた。ほっそりしているがやわらかな体つきをしていて、行き交うたびに、微かに甘くてあたたかい風が立つのを、ぼくは感じていた。果物を買って余裕などはまったくなく、一度も店内に入ったことはなかったが、店の前を通るたびに、ぼくら孤児院の中・高校生は、必ず店内をうかがって、彼女の姿をたしかめるのだった。つまり、彼女は家庭的な雰囲気を持っていて、その点で、孤児好みの女の子だったわけだ。

(女の子のことなど考えているときじゃない)

ぼくは受験参考書に心を集中した。

(女の子のことは高校に入ってから、いやというほど考えよう)

ところが、数分後、ぼくは事務室に呼びつけられ、いやというほど、彼女のことを考えなくてはならないことになってしまった

のだ。

ぼくが事務室に顔を出したとき、ダニエル院長とおばさんの間で問題になっていたのはノートの切れっぱしだった。

「このくだらない言葉は、いったいあなたのどこを押せば出てくるのでしょうか」

院長は、問題の紙片を指先でつまみ上げ、ぼくの目の前で、ゆっくりと左右に振った。おばさんは、ただぼくを睨みつけていた。院長は紙片をぼくの鼻の先まで近づけ、大きな声で読みなさい、といった。紙片に記された文章の初めの三分の一は、あの子がどんなにすばらしい女の子であるかを立証することに重点がおかれていた。中ほどの三分の一は、あの子と結婚したらどんなに幸せかということが、いきいきと書かれていた。残りの三分の一で、ぼくはまるでわけがわからなくなった。そこでぼくが読んだのはぼく以外のだれかがぼくになりすまして、ぼくのことを書いた文章だったのだ。それは、偽ぼくから果物屋の娘へあてた恋文だった。郵便受けに押し込んであるのをおばさんが見つけたのだという。

「それにしては、ぼくの字とちつとも似ていませんよ」

すでにそのとき、^⑥院長は、この事件が前日のハーモニカ事件とごく類似の意図と構造を持っていることに気づいていた。

「……彼が犯人ではないらしいです」

院長は、おばさんを玄関から送り出しながらそう言い、「真犯人をつきとめて、嚴重に反省させます」と約束した。おばさんは、ぼくらを振り向き、振り返りして、浮かぬような解せぬような顔で、坂道を下っていった。

「あなたには心当たりがあるはずですよ。いったい誰ですか？ あなたを悪人にしようとしているのは……？」

よい家に生まれ、音楽を愛し、神様のみこころが天において行われるように地上にも行われていると信じている院長には、船橋たちがなぜそこまで執拗なのか、ぼくがなぜ知らぬふりを通そうとするのか、たとえ説明してもわかってもらえそうもなかったから、ぼくはただ、さあ、と首をかしげてみせた。院長は肩をすくめた。

問一 ~~~~~線部 a 「心もとなかった」、b 「しぶしぶ」、c 「いぶかしく」の本文中の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 「心もとなかった」

ア	気を配らなかつた
イ	期待できなかつた
ウ	判断できなかつた
エ	気がかりであつた
オ	あいまいであつた

b 「しぶしぶ」

ア	注意深い様子で
イ	ゆっくりとおちついて
ウ	気が進まない様子で
エ	遠慮 <small>りよ</small> 深げに
オ	軽い気持ちで

c 「いぶかしく」

ア	はげしく
イ	あやしく
ウ	はつきりと
エ	ぼんやりと
オ	こっそりと

問二 ———線部① 「ぼくらの不幸を鑑賞して帰っていく」とありますが、これは「彼女たち」のどういう様子を表しているのですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 不幸なぼくたちの生活を気の毒に思い、役に立てることはないかと真剣まけんに考えている様子。
イ 一見同情しているようではあるが、不幸なぼくたちの生活を興味本位でしか見ていない様子。
ウ 不幸なぼくたちの力になりたいと思いつつも、自分たちの生活との違いちがに驚おどろいている様子。
エ 自分たちの豊かな生活とは全く違っている、不幸なぼくたちの生活にあきれ果はてている様子。
オ 不幸な状況きょうきょうの中を強く生きるぼくたちの生活をみて、映画をみるような感動を感じている様子。

問三 ——— 線部② 「米軍兵士の慰問は、ぼくらの趣味にじつによく合っていた」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 米軍兵士の慰問には、自分たちのアメリカ好きを満足させるものがあったということ。
- イ 米軍兵士の慰問には、寂さびしいぼくたちの心を完全に満たすものがあったということ。
- ウ 米軍兵士の慰問には、自分たちが喜びそうなものが的確に用意されていたということ。
- エ 米軍兵士の慰問には、敗戦国の子どもへのあたたかい心づかいがあふれていたということ。
- オ 米軍兵士の慰問には、芸人や歌手などアメリカの明るさを表すものが多かったということ。

問四 ——— 線部③ 「それはぼくが独立心に欠けていることを非難している目つきだった」とありますが、なぜ将校たちは「ぼく」に独立心が欠けていると感じているのですか。四十字以内で説明しなさい。

問五

——線部④「院長はとても信じられない、というようにぼくを見つめた」とありますが、この時の院長の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 高校進学を目指してひたすら勉強している真面目な「ぼく」がハーモニカを盗むなんてありえないという気持ち。
イ 隈なく探したはずのハーモニカが、「ぼく」のベッドというわかりやすい所にあることがありえないという気持ち。
ウ もう決して見つかることはないときらめていたハーモニカが簡単に見つかったことがありえないという気持ち。
エ 勉強が好きで音楽好きとはいえない「ぼく」のベッドでハーモニカが見つかったことがありえないという気持ち。
オ 神の子と言われ、悪いことをするはずがない「ぼく」がハーモニカを隠し持っていたことがありえないという気持ち。

問六

——線部⑤「しかし、黙っていた」とありますが、「ぼく」が「黙っていた」のはなぜですか。本文中の言葉を使って六十字以内で説明しなさい。

問七

——線部⑥「院長は、この事件が前日のハーモニカ事件とごく類似の意図と構造を持っていることに気づいていた」とありますが、このとき「院長」は何に気づいていたのですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」にさまざまな疑いがかかるようにして、孤児院の評判を落としてやろうという意図に基づいて、次々に事件が起こっているということ。

イ 果物屋の女の子への「ぼく」の気持ちを知って、その恋心を「ぼく」の代わりに伝えてやろうという意図に基づいて、次々に事件が起こっているということ。

ウ 「ぼく」が欲し^ほそうにしていたハーモニカをこっそりと「ぼく」にプレゼントしてあげようという意図に基づいて、次々と事件が起こっているということ。

エ 「ぼく」をあえて犯人に見せかけることで「ぼく」を可愛^{かわい}がっていた院長を傷つけようという意図に基づいて、次々と事件が起こっているということ。

オ 「ぼく」が悪いことをしたと見せかけることで、孤児院での「ぼく」の立場を悪くしようという意図に基づいて、次々と事件が起こっているということ。

問八

——線部A「近くの果物屋のおばさんが、息せき切って血相かえて、孤児院の坂を駆けのぼってきた」、——線部B「おばさんは、ぼくらを振り向き、振り返りして、浮かぬような解せぬような顔で、坂道を下っていった」とありますが、この間の「おばさん」の気持ちを説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア この手紙の内容をよくわからないままもってきて、院長に見せてはみたものの、真犯人もわからず、院長の指導力のなさにあきらはててしまい、この院は大丈夫なのかと思いつながら帰ろうとしている。

イ 娘にくだらない手紙を出した犯人に腹を立て乗り込んできたのに、調べていくと次第に犯人はうやむやになり、怒りのやり場もなくなってしまい、納得がいかないまま帰ろうとしている。

ウ 普段から娘になれなれしくしていた「ぼく」に腹を立てていたところに変な手紙を見つけ、意気揚々と乗り込んできたが、他に犯人がいるとの院長の判断を聞き、ぼつの悪さを感じながら帰ろうとしている。

エ 孤児院の子どもたちを憎んでいる上に、実際に娘に出された手紙という証拠をつきつけてもまだ罪を認めない「ぼく」の態度に末恐ろしいものを感じ、あわててこの院を立ち去ろうとしている。

オ 手紙の筆跡から「ぼく」が書いた手紙だと確信し、こらしめてやろうと孤児院に乗り込んだところ、まんまと「ぼく」にごまかされてしまい、悔しい思いをしながら孤児院を後にしようとしている。

問九 本文を通して、「ぼく」が「ダニエル院長」に対して抱^{いだ}いている気持ちの説明として最も適^い当なものの中から選^えび、記号で答えなさい。

ア ぼくは、外国人でありながらなんとか孤児院を経営しているダニエル院長のことを素^す晴^はらしいと思^{おも}いながらも、彼が元敵国のアメリカ人であるため、心の内ではおさえることのできない敵意を感じている。

イ ぼくは、不幸な自分たちの面倒をよく見てくれるダニエル院長に対して感謝の気持ちを持っているが、アメリカ的なものを賛美し、日本人を見下している考え方にはついていけないものを感じている。

ウ ぼくは、ダニエル院長が孤児院の子どもたちのために頑^{がん}張^ばっていることは理解しているが、厳^{げん}しい現実を生きるべくや船橋^{ふなばし}たちが考えていることを理解できない心の冷たさを持った人だと感じている。

エ ぼくは、自分のことを理解しようとしてくれているダニエル院長の気持ちは理解しつつも、その育ちの良さから人間の持つ激しい悪意の存在を理解できないことに対し、埋^{くみ}めようのない距^{きょり}離^り感を感じている。

オ ぼくは、不幸な生^おい立ちの子どもたちのために身を捧^{たか}げ、愛を注いでいるダニエル院長を素敵^{すてき}な人だと思^{おも}いながらも、その愛に十分に報^{むか}いきれない自分を意識し、心苦しいものを感じている。

【問題はこれで終わりです。】

【一】

問一	⑤ 大群	① きょうちゅう
	⑥ 恩人	② こくもつ
	⑦ 入場券	③ 功績
		④ 新記録

問二

① 首
② 目
③ 舌
④ 頭

問三

1	A カ	B エ	C ウ
2	エ		
3	暖 ↓ 温		

【二】

問一

A エ
B オ
C イ
D ア

問二

何気なく、口を、表れて、いる、ということ。

問三

て	私
い	が
る	思
	っ
	て
	い
	た
	と
	お
	り
	、
	と
	い
	う
	意
	味
	が
	含
	ま
	れ

問四

四季が均等にめぐる

問五

ア

問六

い	考
込	え
ま	方
せ	ま
て	で
し	が
ま	同
う	じ
	で
	な
	け
	れ
	ば
	な
	ら
	ぬ
	よ
	う
	に
	に
	思

から。

問七

ウ

問八

白

問九

エ

【三】

問一

a エ

b ウ

c イ

問二

イ

問三

ウ

問四

付	ぼ
金	く
を	は
使	働
っ	き
て	な
進	が
学	ら
し	高
よ	校
う	に
と	通
し	う
て	の
い	で
る	は
か	な
ら	く
	、
	、
	寄

問五

ア

問六

の	を	船
受	す	橋
験	ぐ	た
に	間	ち
失	近	の
敗	に	仕
し	控	業
て	え	だ
は	て	と
い	事	い
け	を	う
な	大	証
い	き	拠
と	く	は
考	し	な
え	、	い
た	公	し
か	立	、
ら	高	受
	校	験

問七

オ

問八

イ

問九

エ

二〇一九年度

和歌山信愛中学校

入学試験 C日程

作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙と下書き用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、「世界で活躍するために必要なこと」について、あなたの考えたことを六百字以内で述べなさい。

日本という国は、ある程度の規模の人口を抱える科学的・文化的にも進んだ国なので、生活や仕事をする上でも、学ぶ上でも、日本語だけで十分に間に合う。世界のニュースや海外の文献なども日本語に訳されているものが多く、ネット情報も日本語だけで不自由はない。そのため、世界の多くの国のように「英語を身につけておかないと困る」という日常的な場面が少なく、いくら学校で英語を習っても、使えるようにはなりにくい。ところが受験には英語が必須である場合が多く、勉強しなければならぬ科目とされている。だから、「英語のできる人は『賢い』』というイメージを持つ人も多い。

他方、高校生や大学一年生あたりに、「世界といえど？」と尋ねれば「アメリカ、イギリス、オーストラリア……」。「留学したいところは？」「アメリカ、イギリス、オーストラリア……」。世界の8割を占める開発途上国などはこの地球上に存在していないかのようなようである。「国際社会イコール欧米社会イコール洗練された進んだ社会」という意識を強く刷り込まれてきた面があるのだろうか。先のことと合わせ、やっぱり「英語を流暢に話せればかつこ良い！」となる。

「じゃあ、アメリカ人ってみんな『賢い』の？」「イギリス人というだけで※グローバル人材？」そんな訳はないことくらい誰でもわかる理屈だが、日常会話や上辺だけの意味のないコミュニケーションしかできなくても、「私って『クール!』」と勘違いし、周りも尊敬の眼差しで見たりする。

「じゃあ、自慢の英語を活かしてアメリカで一流の仕事にチャレンジしたら？」「国連などの国際社会で活躍したら？」「……」

英語が話せるというだけで、社会や世界のことについては無知・無関心なら、それはもう何も語れない。英語を使えることと「グローバルな人材」になることとは、違うのだ。

「グローバル人材といえど、世界でバリバリ稼ぎまくる人」。そうとらえている学生もいる。人間は社会的動物であり、支え合って生きているということを理解せず、自分一人で生きている気分なのかもしれない。

(関谷 武司 『世界へ挑む君たちへ』による)

注 ※ グローバル：世界的な規模であるさま